

## 週報

国際ロータリー・テーマ

ロータリーは分かちあいの心

Vol.41 第2017回例会

2008.2.28



## 今年度会長テーマ

ロータリーは楽しさを分かちあい  
 ロータリーに楽しさを分かちあい  
 新しい仲間の輪を拓けましょう 皆さまとともに

■司会：  
 漆原例会運営委員



■点鐘：樺澤会長

■合唱：ロータリーソング  
 「それでこそロータリー」

◆ソングリーダー：村田会員



■お客様紹介：  
 野澤パスト会長

◆ゲスト：  
 津久井RC 山本芳昭様



## ■会長報告

樺澤会長

お話は明治38年のことでした。「それはあまり照明の良くない、机が1つ、椅子が3つ4つ、隅の方にコート掛けが1つ、それに絵が1、2枚と工作図面が1つの壁に掲げられた小さな部屋だった。」「それは鋤山技師、ガス・ローアの事務所だった。そして、ガスが1人の訪問客ハイラム・ショーレーという裁縫師を迎え入れたばかりの時だった。ハイラムは堅型の椅子の1つに腰をおろして、ガスと話始めた。彼らの話は友人の弁護士が数ヶ月前から始終論じていた構想のことに移って行った。その弁護士の名はポール・ハリスといったが、彼は新しい種類のクラブの構想を持っていた。ガスとハイラムは二人の訪問客、石炭商のシルベスター・シールとほかでもないポール・ハリスその人を待っていたから、今晚もまたその問題を論じ合おうというものであった。」  
 「やがて、その二人が部屋に入って来た。…ポー



ルが新しいクラブの構想を発表した。…かくして1905年2月23日にロータリーが誕生したのであった。」と「奉仕の冒険」と題する書物に記載されていることがROTARY MOSAICに説明され、さらにロータリーがはたしてこの1回の会合で生まれたのか、それともその時はまだ、ロータリーの構想が考えられたのか各人の見るところに任せるほかない。と記載されていますが、何はともあれ、ロータリーが誕生したのは、1905年(明治38年)2月23日とされているようです。それから62年経過した2月23日、昭和42年2月23日に東村山農業協同組合でロータリークラブの設立総会が開催され、東京東村山ロータリークラブが誕生したのでした。このように、2月23日は、ロータリークラブの誕生日でもあり、また、東京東村山ロータリークラブの誕生日で、ポール・ハリスさんと、初代会長野澤良助さんはじめ、先人の皆様のお蔭で、このように素晴らしい出会いを戴いたことに感謝申し上げます。

先々週の19日に開催されたIMでは皆様ご苦勞様でした。残念ながら、私、桑田ガバナー補佐の言われる「本音」の真意が未だに理解できません。「本音」の反語は「建前」であると思いますが、建前のロータリークラブでは、楽しみも魅力もなく、「本音」であってこそ、「楽しい魅力ある活動」になると信じています。

## ■幹事報告

河野幹事

■ロータリー財団委員会：  
 2009～10年度R財団奨学生  
 第2次選考試験の受付について  
 クラブ宛メ切り  
 3月18日(火)  
 G事務所宛メ切り  
 3月24日(日)必着



■東京練馬西RC：  
 2007～08年度R I 2580地区地区協議会開催  
 のお知らせ☑  
 2008年4月14日(月)  
 13:30 登録 14:00 本会議  
 於 椿山荘

■例会日／毎週木曜日 12:30～13:30

■例会場／八坂神社 社務所

〒189-0013 東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／相羽 正 小林 学 田中 重義

■事務所／〒189-0013

東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101  
 TEL 042-393-7500

■ガバナーエレクト事務所：

2008～09年度地区役員・クラブ会長・幹事名簿作成について(次年度会長・幹事へ確認予定)

地区指導者チームリーダー協議会開催の案内  
2008年3月21日(金) 14:00～16:30  
於 ガバナー事務所

■ガバナー事務所：

2010年R I 規定審議会に関する件  
2010年4月25日～30日(予定)に開催される規定審議会への立法案提出方法と付託案件に関する決定について

第7期生(2008～10年度)ロータリー・センター・ホストエリア・セミナー開催の案内  
2008年4月5日(土) 15:00～17:45  
於 JICA地球ひろば

■東京青梅RC：

2007～08年度 第6回現・新合同多摩分区連絡会の案内  
2008年4月6日(日) 15:00受付、15:30開会  
於 パレスホテル立川

<親睦ゴルフコンペ>

2008年4月7日(月) 午前8:00スタート  
於 青梅ゴルフ倶楽部

■東村山市緑を守る市民協議会：

平成20年度総会の案内と賛助会費納入のお願い  
平成20年2月28日 18:00～  
於 市役所北庁舎2F

賛助会費 ￥10,000

■ニコニコBOX 山本クラブ管理委員

■皆出席：

飯田会員(2回目)



- ◆杵山会員：2月25日新工場へ移転しました。
- ◆漆原会員：先日は母の葬儀でお世話になりました。
- ◆樺澤会長：野村国際奉仕委員長ご苦労様でした。
- ◆野村会員：ロサンゼルス国際大会16名が参加決定しました。
- ◆田中会員：地区大会ゴルフ2週間前にせまりました。
- ◆中丸会員：野村さんの卓話楽しみにしています。
- ◆高橋会員、溝井会員：杵山さんの工場の移転おめでとうございます。
- ◆肥沼会員、河野幹事、高橋会員、田中会員、小林会員、五十嵐会員、漆原会員、野澤会員、當麻会員、樺澤会長、山本会員、神崎会員：写真ありがとうございました。



本日のニコニコ合計： 45,000円  
累計： 1,277,500円

■報告事項 日時多摩分区次年度ガバナー補佐

次年度に向けて、昨日、会長エレクト出席のもとで行われました。第2580地区、都内の60クラブで午前中から熱心な協議会でした。事実上、次年度のスタートが切られたと思います。次年度7月第一週よりガバナー公式訪問が始まりますが、当クラブは7月24日(木)で夜間例会に決まりました。折角の機会ですのでガバナーを囲んで、有意義な公式訪問にしたいと思います。次年度のR Iテーマは「夢をかたちに」、第2580地区のテーマは「お陰様の心で夢をかたちに」と大変思いの多いテーマです。



■出席報告 林例会運営委員

在籍会員数	出席	免除	欠席	出席率
43	32	1	10	75.00

■前々回メイクアップ修正後

前々会欠席：5名

■前々回出席率

メイクアップ修正後：87.50%

■前々会メイクアップ者：

- 赤木会員：理事会
- 恵面会員：地区米山委員会
- 熊木会員：所沢中央RC
- 日時会員：地区リーダー研修
- 竹田会員：所沢RC
- 當間会員：所沢西RC
- 漆原会員：所沢中央RC



■委員長報告 當麻地区研修委員

炉辺会合3月6日 18:30～  
いちまつさんにて  
欠席で出されている方も都合つくようでしたら、出席をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。



■カンボジア地雷除去活動視察に参加して



①カンボジアの歴史

面積は日本の半分以下の約18万平方キロという小さな国で、日本から南へ飛行機ではほぼ6時間の距離でベトナム、タイにはさまれた小さな王国です。

もとは、フランスの統治下にあり、パリのようにロータリーから放射状に伸びる大通りがあります。隣のベトナムでは1960年代の中頃から、アメリカ軍と北ベトナム軍が戦っていて、70年代になるとカンボジアもその影響を受けるようになる。それ以来5つの国がそれぞれ支援した2つのプノンペン政府軍と3つの反政府軍とそれに10年間駐留したベトナム軍の6種類の軍隊が30年間カンボジア国内で戦いつづけその全てが地雷を使ったと言われている。ベトナム軍は1979年にポルポト派の軍隊をタイ国境に追い詰めその反撃を地雷で封じ込めた。ついで、1984年にベトナム軍は大攻勢をかけ反政府三派軍を国境からタイ国内に追い出した後、南は台湾の海岸から、北はラオスの国境まで長さ1000km以上に及び地雷ベルトの防御線を築く。その際200万個を超える旧ソ連製とベトナム製の地雷を埋めた。それに対抗して反政府側は全国各地に残った兵力でベトナム軍へゲリラ戦をしかけ、中国製の地雷を10年間に渡って使用。

その後世界情勢が変わり、1989年にベトナム軍が撤退しますがその時も追撃を防ぐために地雷を埋め、ベトナムという大きな後ろ盾を失ったプノンペン政府軍は地雷を主な武器にして反政府軍と戦った。

その間9カ国で35種類の地雷がカンボジア国内で使われた。旧ソ連と中国製がもっとも多く使用された。

以上のように内戦で国内は荒れポルポト政権中の暗黒時代に知識者層がすべて農村部へ追いやられ殺されたことが、この国にとって大きな打撃となって今に至っています。

②2580地区の経過

1998年10月に2580地区ガバナー直轄の「対人地雷の除去に関する研究チーム」が発足し、カンボジアのプノンペンで開催された、「地雷除去及び被害者救済のための国際会議」に代表者出席してから始まり、2000年3月から「ロータリークリアランド第1号」がシュムリアップ郡タシム地区ロハール村に決定し、2001年2月に引渡しを受ける。そして、10年目の2010年2月にクリアランド10号の引渡しが進んで10年計画終了となる予定。

③HALO事務所でのブリーフィング

シュムリアップ郊外にある、ヘイロートラスト(イギリスの地雷除去専門のNGO)(non-governmental organization)にて約1時間半のパワーポイントを使ったブリーフィング(要点説明会)トラストがロータリークラブと関わってから今迄の経過を資料を使って細かに説明してもらう。

④地雷原でのブリーフィング

(参加人員23名 内女性4名)  
※ユニフォームと帽子着用

シュムリアップ空港より北西に約120km、時速180kmで40分旧ソ連製の軍事用を改造したヘリコプター(Mi-8T型機)にて地雷原を目指す。

到着した場所はタイ国境まで直線で300m縦のバンテイメンチェイ州チャマー地区ダンラエク村とプラサットティパング農耕地No9。

そして、訪問した小学校はプラサットティパング校(男子生徒123人、女子113人 計236人と教師6名 6才~17才)

「校舎(木製で電気、水道、ガス当然なし)内にて参加者全員と生徒達とで質疑応答」  
(4人の先生と校長と図書責任者)

⑤今後の地雷除去活動

2000年3月から始まり2010年2月で一応終結する計画となっている。

まだ非公式ですが、今回JTB会長が参加しておられ熱心にこの活動の必要性をお話しておられました。その会長からJTB側として最終年度にはチャーター機を1機飛ばしてみたいとのお考えがあるようでした。

その際は、日本の外務省とカンボジアの国王を招いて何か大きな行事を催したいとの事でした。

■点鐘：樺澤会長